

# 令和2年度

## 第1回伊万里市立学校規模適正化協議会会議録

- 1 日 時 令和2年8月7日(金)  
開会 14時00分  
閉会 15時30分
- 2 場 所 伊万里市民センター 文化ギャラリー
- 3 出 席 20名
- 4 欠 席 6名

No.	氏 名	出席	No.	氏 名	出席	No.	氏 名	出席
1	上野 景三	○	10	木寺 智子	欠	19	清水 正彰	欠
2	墨谷 誠一	○	11	小杉 道久	○	20	黒川 敦子	○
3	吉永 浩伸	○	12	達 信子	○	21	田中 健一	欠
4	坂本 和人	○	13	掛園 真樹	○	22	岩永 孝雄	○
5	前田 勉	欠	14	石井 司朗	○	23	森 俊介	○
6	西 靖幸	○	15	松尾 哲司	○	24	松尾 正司	○
7	堀田 広隆	○	16	田中 啓三	欠	25	松本 啓二	○
8	鍛冶 未華	○	17	福地 佳野	○	26	松本 壽雄	欠
9	井手 幸江	○	18	口石 さおり	○			

議事録署名者 20番 黒川 敦子

22番 岩永 孝雄

## 5 審議経過

部長	<p>みなさん、こんにちは。</p> <p>大変お忙しい中に、本協議会にご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>私は伊万里市教育委員会教育部長の多久島と申します。よろしくお願いたします。</p> <p>今年度の学校規模適正化協議会を開くにあたり、今年度、役員改選により委員の変更となる団体におかれまして、本協議会役員への推薦をいただきありがとうございました。今年度の委員の皆様の名簿は資料17ページに記載しております。全体で26名の方に委員をお願いしております。</p> <p>ここで事務局の紹介をいたします。</p> <p>(事務局紹介)</p> <p>それでは、只今より、令和2年度第1回伊万里市立学校規模適正化協議会を開催します。</p> <p>まず、辞令書の交付を行います。今年度、各団体の役員改選等により新たに委員になっていただいた方に辞令を交付させていただきます。代表で伊万里市学校長会代表の吉永浩伸様、前の方をお願いします。</p> <p>(松本教育長より辞令書交付)</p> <p>他の新たな委員の方々につきましては、机上の封筒の中に辞令書を入れておりますのでご確認ください。</p> <p>なお、昨年度から継続の委員の皆様におかれましては、令和3年3月31日までの辞令書を昨年度お渡ししておりますのでございません。</p> <p>それでは、今日の会議の議事録署名人を指名したいと思います。昨年度は会長と副会長が議事録署名者として指名されておりましたが、会長、副会長以外の方が良いのではないかというご意見をいただいております。</p> <p>このようなことから、今回は黒川敦子様と岩永孝雄様に議事録署名をお願いしたいと思います。皆様よろしいでしょうか。</p> <p>(拍手)</p> <p>では、黒川様、岩永様、よろしくお願いたします。</p>
----	--

	<p>続きまして、役員選出に移ります。伊万里市立学校規模適正化協議会設置要綱第5条により、本協議会の会長及び副会長を選出したいと思います。</p> <p>まず、会長につきましては、昨年度より小杉道久様を選任し、お引き受けいただいております。今年度も小杉様をお願いしたいと思いますですがよろしいでしょうか。</p> <p>(拍手)</p> <p>小杉様、今年度もよろしくお願いいたします。前の会長席にご着席ください。</p> <p>次に、副会長につきましては、前年度の田中様が役員改選によりご不在となりましたので、皆様からご推薦をお願いします。</p> <p>では、副会長についても事務局の方での推薦でよろしいでしょうか。</p> <p>では、伊万里市小中学校連合 PTA 母親委員会代表の井手幸江様に副会長をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>(拍手)</p> <p>それでは、井手様、前の副会長席へお願いします。</p> <p>では、小杉道久様、ご挨拶をお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>こんにちは。</p> <p>昨年に引き続き会長に選任されました小杉道久でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>昨年度は諮問事項の1つ『滝野中学校の統合問題』で、滝野中学校と国見中学校を統合する、併せて滝野小学校は東山代小学校と統合すると最終答申をしたところでございます。</p> <p>今年度は、諮問事項の2つ目の『今後の伊万里市立学校の在り方について』一定の方向を見出すことが課題であろうかと思っております。</p> <p>委員さんの積極的なご期待申し上げまして、簡単ですけれども会長の挨拶に代えさせていただきます。</p> <p>よろしくお願いいたします</p>

部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、副会長の井手様、一言お願いいたします。</p>
副会長	<p>副会長に任命され、まだ役目がわかりませんが、子どもたちが活動しやすいような学校づくりに協力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、これからの議事進行につきましては小杉会長の方をお願いしたいと思います。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>それでは、レジュメに沿って進めたいと思っております。</p> <p>教育長挨拶、松本教育長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
教育長	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>本日、伊万里市内の小中学校及び義務教育学校は無事に1学期の終業式を迎えることができました。</p> <p>ご存じのとおり、新型コロナの感染拡大は続いております。本日も佐賀県でも発症例があると聞いておりますけれども、前例のない、先の見えない、そういった中で学校教育も進行しているような状況です。</p> <p>今日は、このような中でお越しいただいて本当にありがとうございます。</p> <p>本協議会は昭和56年に設置がされています。その時々いろいろな状況を鑑みながら、大規模校を分離、あるいは少子化による統合をしたりということで、学校の規模適正化について協議が行われてきたということです。</p> <p>前回、平成26年度の答申から5年経ちまして、昨年度から再開をしたところでございます。</p> <p>先ほど会長からお話がありましたように、滝野校につきましては、それぞれ国見中学校と東山代小学校に統合するという協議会からの答申をいただいたところでございます。</p> <p>教育委員会では答申をしっかりと受け止め、先月7月1日には滝野校の教育を考える会、そして7月27日には滝野校区での地区説明会が行われまして、答申に至る経緯の説明等を行い、懸案事項等について現在検討をし</p>

	<p>ているところでございます。</p> <p>今年度は児童生徒の減少、校舎の老朽化等を踏まえ、伊万里市全体の学校の望ましい規模や配置、教育環境について総合的に協議をしていただき、今後の伊万里市立学校の在り方について、基本的な考え方や具体的な方策等を検討していただくことになろうかと思えます。</p> <p>どうぞ、委員の皆様には子供たちの視点に立っていただき、子供たちがAIの発達等により急速に変化していく社会を生き抜いていくために必要な力を、どのような教育環境で身に付けさせていくのかという観点を十分にご検討いただきたいと思えますし、これからの学校の在り方についての基本的な考え方について検討していただきたいと思えます。よろしくお願いたします。</p> <p>また今回は、佐賀県教育委員会学校教育課参事の吉牟田先生にご同席いただいております。後でお話しいただきたいと思えます。</p> <p>また、伊万里市の将来的な学校の在り方まで議論が及ぶということから、昨年度に引き続き、学校教育学全般に精通されていらっしゃる西九州大学の上野先生にも委員として加わっていただいております。</p> <p>どうぞよろしくお願しいたいと思えます。</p> <p>それでは皆様、どうぞよろしくお願いたします。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、7番の諮問事項の確認と昨年度の審議の経緯について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>学校教育課の中尾と申します。</p> <p>私から、まず諮問事項の確認をさせていただきたいと思えます。</p> <p>資料2ページをご覧ください。</p> <p>諮問事項は2点ございました。</p> <p>1点目は、前回までの協議会で付帯事項となっている『滝野中学校の統合問題について』です。</p> <p>2点目は、『今後の伊万里市立学校の在り方について』です。</p> <p>昨年度、3回の協議会を開催いたしました。その中で、特に1点目の滝野中学校の統合問題について焦点を当て審議をしていただき、第3回目にお</p>

	<p>いて、滝野中学校は国見中学校と統合する、併せて滝野小学校は東山代小学校と統合するという最終答申をいただいたところです。</p> <p>この答申を受けまして、7月1日には滝野校の教育を考える会において、懸案事項などについてご意見をいただきました。</p> <p>また、その後7月27日には滝野地区説明会において、これまでの経緯などを説明させていただきながら、地域の方々からのご意見をいただいたところです。</p> <p>今後の統合に向けて、整えるべき条件について協議を重ねてまいりたいと考えております。</p> <p>なお、現在大きな懸案事項としましては、統合の時期と通学保障の問題、この2点が出ております。</p> <p>諮問事項の2点目につきましては、今後の伊万里市のまちづくりにも関わる事項であり、今年度、委員の皆様よりご意見をいただきたいと考えております。</p> <p>なお、今年度は、本日を入れて3回開催する予定でございます。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>事務局から説明がありましたが、何かご質問等がありましたらお願いいたします。</p>
石井委員	<p>区長会連合会長の石井です。</p> <p>先ほど、滝野の地元説明会があったと報告がありました。</p> <p>私もそのような説明会があったということは聞いておりますが、その内容については聞いておりません。</p> <p>聞いた話では、滝野地区の説明会の中で、中学校の統合を2年後を目途に、小学校についてはその後という答申だったかなと思いますけれど、説明会の折りには、地元から異議の声があったと聞いておりますけれども、できれば（小中）一緒に統合をしたいという声があったと聞きましたけれど、そのあたりの地元の意見をお知らせください。</p>
会長	<p>説明会の折りの具体的な内容等について、差し支えなければよろしくお願いいたします。</p>

<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>統合の時期について、それから通学保障について、この2点は懸案事項として持っておりました。</p> <p>先ほどお話ししましたように、滝野校の教育を考える会、滝野地区での説明を2回行ってきましたけれど、その経緯について、内容についていくらかご報告をさせていただきます。</p> <p>まず、統合の時期につきましては、現在も検討している最中でありまして、当初は中学校の統合については良いけれども、小学校については遅らせてほしいというご意見が確かにございました。そういうことから、令和4年度に中学校、令和7年度に小学校を統合してはどうだろうかという案を教育委員会としては持っておりました。</p> <p>その後、滝野校の教育を考える会等でお話を伺う中で、子供たちにとっては、環境が大きく変わる、その中で、学校に馴染めない子供たちが出てくることも心配されるという声がありました。</p> <p>それをできるだけ解消するためには、滝野校の児童生徒が東山代小学校、国見中学校の児童生徒と十分交流する時間が必要ではないかというご意見がありましたので、中学校の統合時期を1年遅らせて、令和5年度とする案を改めて検討し始めたところでした。</p> <p>しかしながら、先日の地区説明会に参りました時に、保護者の意見を優先してほしいというご意見がございました。</p> <p>その中で、統合の時期をできるだけ早めに示してほしい、しかも小中同時に統合するという方向で考えてほしいというご意見があったのは事実でございます。</p> <p>その時期を見極めて、保護者の方としましては、これから入学する子供さんの入学先を検討したいという意見もございました。</p> <p>現在、このような意見を受けながら、小中同時で統合時期について改めて検討しているところです。</p>
<p>会長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p>
<p>石井委員</p>	<p>小中同時ということで、先ほど中学校は令和5年度を目途にということですが、当然遅れると思うんですね。</p>

	<p>今、東山代小学校の建設が計画をされていますが、これに間に合うような統合の仕方をされる計画なのでしょうか。</p> <p>今の時点じゃはっきりとわからないでしょうけど。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>統合時期につきましては、今年度中には結論を出したいと思っております。</p> <p>ですから、統合の時期につきましてはまだ検討中ということです。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは次に移りたいと思います。8番の協議ということでよろしく願いしたいと思いますが、本会の終了を15時30分を目途に進行させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>それと、発言される場合は、記録の都合上、所属、氏名を述べてからお願いいたします。</p> <p>レジュメに3つ書いてあると思います。</p> <p>まず、(1) 公共施設、学校教育系施設の再配置について企画政策課の方から提案をいただくようになっております。</p> <p>昨年度、協議を進める中で、市としての方針を示してほしいというご意見もありましたので、企画政策課の方から提案をお願いしたいと思います。</p> <p>次に(2) 義務教育学校についてということで、吉牟田一広前南波多郷学館校長、現在県学校教育課参事ということですがけれども、先生の方から義務教育学校についてお話をいただきたいと考えております。</p> <p>そして3番目に、以上2つを受けまして、今後の伊万里市立学校の在り方について、意見交換をしたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>では最初に、企画政策課からお願いしたいと思います。</p>

<p>企画政策課</p>	<p>企画政策課長をしております松本と申します。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>資料の説明をします前に、本日説明に参りました経緯について簡単に説明させていただきます。</p> <p>今年度4月、企画政策課内に公共施設マネジメント室を新設しまして、個別施設計画について、今年度末までの完成を目指して計画案の作成作業を進めているところでございます。</p> <p>この計画は、市が持つ公共施設の全部について、建物の老朽化の状態を調査し、利用状況や今後の人口の増減見込み等を考慮しながら施設の更新等に今後どう取り組んでいくのかについて、方向性を示す計画となっております。</p> <p>この中で、公共施設の全体の4割を占める学校施設につきましては、特に重要と捉えており、校舎の老朽化の進み具合や今後の児童生徒数の推移を見ながら検討を進めているところでございます。</p> <p>このような中、先ほどあったようにこれまでの学校規模適正化協議会の中で、協議のたたき台とするためにも市の考え方を示してほしいということでありましたので、今後の学校施設の整備、建替えや統合、もしくは廃止等の方向性につきまして、現時点で取りまとめをした案を本日参考資料としてお示しをするものでございます。</p> <p>お手元にお配りしております資料についてこれから説明をいたしますが、この案はあくまでも施設管理からの検討を行ったものですので、ぜひこの協議会の中では、参考資料という位置付けで、教育面からの検討を行っていただければと思っております。</p> <p>それでは、資料の概要について説明いたします。</p> <p>まず1ページ目でございます。0才～14才までの伊万里市の人口の推移、現状と将来像ということで示しております。</p> <p>左が2015年（平成27年）の状況で、右が2045年（令和27年）の推計をしたものでございます。</p> <p>地図に色がついておりまして、人口の多い方から濃い青としており、人口</p>
--------------	---

が減るごとに赤、黄色、最後に白としております。

右側の図を見ていただきますと、今から25年後でございますが、市内の中心部は色が残っている状態ですが、周辺部は真っ白になることが見てわかるかと思えます。

2ページをご覧ください。

今回は14才以下の人口です。さっきは地区ごとにでしたが、学校の校区ごとに整理しております。

左が小学校区、右が中学校区で、それぞれ2015年を100としたときの今後5年ごとの推計したものでございます。

左の小学校区では、立花小学校区は増加しております。その下、二里小学校区は横ばいの見込みとなっておりますが、他の校区は大きく減少する見込みとなっております。

次に右の中学校区を見ていただきますと、伊万里中学校区、国見中学校区は少し減少していますが、その他は大きく減少する見込みとなっております。

次のページをお願いします。

このような14才以下の人口の増減を踏まえまして、学校教育施設の再配置、統廃合等について検討したものを図にまとめたものでございます。

繰り返しになりますが、この図が示す学校統廃合の考え方は、施設活用の面、つまり建物の耐用年数や健全度、児童生徒数の推移、特に複式学級にしないことを念頭に置いて、さらに既存施設をできるだけ活用することなどの視点で作成したものでございます。

この点に留意してご覧いただければと思います。

赤いだ円で示すものが早期の対策が必要なものと考えております。

青いだ円が将来的に対策が必要になってくるものを示しております。

つまりここに記載しているものについては、全てのものをここ2、3年でやっつけてしまおうというのではなく、今後このような方針を持ちながら、実際の児童生徒数の増減等を見ながら、年次的に取り組んでいきたいという計画を表したものでございます。

例えば滝野小学校と滝野中学校、これについては協議会の答申に基づきまして、速やかに取り組む必要があるということで赤いだ円で示しております。

この図を作成するときの基本的な考え方として、周辺部については、児童生徒数の減少具合を見まして、小学校を比較的新しい中学校の建物に統合をしていきまして、いわゆる義務教育学校にしていくことを基本に検討しまして、またそれを可能とするためにはスクールバス等が必要であると考えております。

次のページをご覧ください。

先ほどの図を中学校区ごとに整理をしたものでございます。

この案でいきますと、最終的には小学校の建物が現在15ありますが、統合により、8に減少することとなり、中学校は8から7に減少することになります。

それでは中学校区ごとに見ていきたいと思っております。

啓成中学校区は、牧島小学校の老朽化が大変進んでいることから、また現在の複式学級を解消するために伊万里小学校への統合としております。

次に伊万里中学校区でございます。

大坪小学校はそのままで、大川内小学校につきましては、立花小学校への統合としております。

ただし、立花小学校は児童数が当面の間増加する見込みでございますので、立花小学校の減少具合を見ながら、タイミングを見ながら検討していくことになろうかと思っております。

続いて国見中学校区をご覧ください。

東山代小学校については先ほどから言われておりますが、老朽化が著しいということで、建替えを行う計画にしております。建替えに際しては東山代コミュニティセンターとの複合施設とすることで検討しているところでございます。

また、滝野中学校については国見中学校に統合することで進めております。

次に5ページをお願いいたします。青嶺中学校区です。

	<p>黒川小学校と波多津小学校について、今後も児童数の減少が続く見込みであることから、時期を見て、青嶺中学校に統合する案としております。</p> <p>次に東陵中学校区です。</p> <p>大川小学校と松浦小学校の老朽化が著しいということから、東陵中学校に統合する案としております。</p> <p>また、そこに南波多郷学館区を記載しております。</p> <p>当面はこういうことはないかと思いますが、将来的に南波多の生徒数が減少した場合に、東陵中学校に統合する案として示しておりますけれども、義務教育学校同士の統合が現実的であるということから、今回1つの案として示したものです。</p> <p>最後に山代中学校区でございます。</p> <p>山代西小学校の複式学級の解消のため、山代東小学校へ統合した上で、その後の児童数の減少、また山代中学校の生徒数の減少状況を見ながら、山代中学校に統合する案としております。</p> <p>なお、ここには記載しておりませんが、山代コミュニティセンターの老朽化への対応も併せて考える必要があるかと思っております。</p> <p>このように、各地域の実情は異なっておりますので、それぞれの案を実際に実行することとなりました場合には、適切なタイミングを定める必要があると考えております。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>施設面からの再配置についての提案でございました。</p> <p>非常にわかりやすく、今後の伊万里市の学校の在り方に対する貴重な提案ではないかと考えているところです。</p> <p>何か質問等がありましたらお願いします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、今後の学校の在り方の1つであろうかと思えます、義務教育学校とはどういうものなのか、そういうことについて理解を深めていきたいと思えます。</p> <p>吉牟田先生よろしく願いいたします。</p>

<p>吉牟田県学校 教育課参事</p>	<p>こんにちは。吉牟田でございます。</p> <p>鹿島の間人ですけれども、こうしてまた伊万里市に呼んでいただきますと、地元に戻るような気持ちで、今日は少しウキウキしながら出てまいりました。本当にありがたい御縁をいただき感謝申し上げます。</p> <p>今日は、南波多郷学館の昨年度の具体的な取り組みを通じて、皆様方の義務教育学校へのイメージを共有していきたいと思っています。</p> <p>改めて見ましても、非常に美しい学び舎です。昨年度1年間幸せだったなと思います。</p> <p>桜、そして『みなみ』の植え込み、プールの横には手入れの行き届いた畑もございます。育友会、また地域の方がボランティアで管理をしてくださいます。中には、80過ぎのご高齢の方もいらっしゃいますけれども、その方は、自分が学校とか公民館とか公共の施設の役に立ちたいと仰ってくださいました。</p> <p>地域の人々の生きざまに支えられた学校です。</p> <p>そういう風に考えた時に、南波多の子供たちをこの敷地の中で育てるといいう狭い視野ではなくて、南波多総がかりで育てていく。そういう仕組みを更に充実させていかなければならないなど。</p> <p>その母体となる南波多の地域の活性化に、少しでも学校の教育活動が貢献できるように意識と仕組みを整えていかなければならないなという思いで、私の中での学校づくりの方向性が明確になったところでした。</p> <p>そこで、ふるさとを愛し志を持つ児童生徒の育成という学校教育目標をもとに、3つの重点で総がかり、そして活性化という私なりのテーマのもとに学校づくりを進めてまいりました。</p> <p>今日は義務教育学校ということで、そこに焦点をあてて、(1)9年間の枠組みでの体制づくりということについての話を進めてまいります。</p> <p>小中一貫校南波多校から、平成30年度に義務教育学校南波多郷学館に名前が変わってスタートしました。</p> <p>小中一貫教育の理念は引き継いでおりますので、その延長線上で、ただ学校の名前が変わっただけのように見えますが、実はそうではなく、新しい</p>
-------------------------	---

ステージの学校に変わるということをまずお伝えしなくてはなりません。法令的には学校教育法の第1条に小学校、中学校、並列して義務教育学校とあります。

第4章小学校、第5章中学校、第5章の2として義務教育学校とあります。その目的が、義務教育学校は心身の発達に応じて義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して施すことを目的と明示してあります。

伊万里市の学校設置条例です。1伊万里市立小学校、2伊万里市立中学校、そして3として伊万里市立義務教育学校として南波多郷学館が示してあります。

つまり、小中一貫校南波多校の時には小学校と中学校の集合体だったわけですが、義務教育学校南波多郷学館は新たな校種として、新しい学校づくりを進めていかなくてはならないということです。そこへの意識の転換を図ることがまず大事でした。

しかし、これが簡単にはいきません。

当然ながら地域に根付いた小学校文化、中学校文化があります。地域というより世の中ですね。教職員も人事異動で小学校、中学校それぞれの文化を染み込ませたまま郷学館に異動してまいります。

頭の中では意識の転換を図ることが大事だとわかっている、身体が馴染みません。

加えて、教育行政の認識も義務教育学校に追いついていない現状があります。例えば、言葉の使い方1つに取ってみてもです。義務教育学校が見えてきません。前期課程の児童、後期課程の生徒がここには見えてきません。こういうところも意識の転換がスムーズにいかない1つの要因だと、行政にいる私もそう思います。

意識の転換を図るために、昨年度4月に着任した最初の職員会議で、ステージ制を導入しますということを伝えました。

9年間で3つに分類して、ステージ1を1年生からの4年間、ステージ2が次の3年間、ステージ3が最後の2年間という区分で全ての教育活動を

整理して教育効果を上げることが、郷学館の目指す学校像ですということを伝えました。

加えて、意識の統一を図るためにNGワードを示しました。

とは言いながら私も何回も『小学生』とか『中学生』とかつい言っています。身体が馴染まないというところがありました。

なぜステージ制なのかというところを整理しました。

1つ目は小学部、中学部からの脱却です。意識を変えるために形を変えるということです。

小学校、中学校ではないんだということに今振り返ってみるとむきになっていたなと思います。消極的な理由です。

2つ目です。

小学部、中学部それぞれで動いてしまうのではなく、9年間を一括りで見えて、より伸ばすための枠組みを作っていくということです。

当然、9年間長いですのでメリハリは必要です。段差も必要だと思っています。それを6年生と7年生の間に置くのではなくて、4年生と5年生の間、7年生と8年生の間に置く。そして、それぞれのステージの上級生、4年生と7年生に自覚を持たせて9年間でリーダー制を育てる。

教職員の立場としても、小学校の文化、中学校の文化それぞれに学ぶところがありますので、それらを上手く融合させていけば指導者としての資質が上がるのではないかというのが理由の2つ目です。

3つ目です。これが義務教育学校の最大の強みであります、4-3-2区分の方がより教育効果があるということを目指したということです。

義務教育学校は、教科の指導内容を学年間で入れ替えることができるというか、やり易い、正しく言うと、設置者の判断でそれができるところです。

小中一貫校との最大で唯一の制度上の違いと言えるかも知れません。

例えば、7年生以降で学習する内容を5、6年生で前倒して学習する。

漢字や英単語の習得を早い時期で行う。それがやり易い。

9年間を見通した上で、上手く整理すれば、ステージ1では基礎基本の徹

底を図る、ステージ2では学力の定着を図る、ステージ3では個性の伸長を図るという段階に応じて確実に力を付けて、トータルで力を付けることができるという信念のもとのステージ制でありました。

9年間の枠組みでの体制づくりの軸をステージ制の完全導入において学校づくりを進めていきました。

軸がはっきりしたところで、少し長いスパンでの見通しを整理しました。先ほど児童数の減少のことが示されましたけれども、郷学館の校区でも今から4年後、昨年度の段階では入学生が9人になるという情報がありました。現状は1学年20人前後です。

ここを見据えた時に、9年間で3年区切りで創造期、充実期、発展期と示しておりますが、発展期には学区外からも郷学館への就学希望があるような魅力ある学校を創っていきたい。例えば唐津から郷学館へ通う子がいないかなとか、そういうビジョンで学校づくりを進めていきたい。

創造期にあたる昨年度2年目に具体的に取り組んだことをこれからお話いたします。

創造期の目標を2つ掲げました。1つは教育計画の見直しです。2つ目はステージ制のメリットを活かした教育活動の整備・実践です。

ふるさと学習やキャリア教育を整備して、9年間の柱となる学習を設けました。

算数数学科、英語教育、これは内容の前倒しを検討したところです。

ステージ制のメリットを活かした教育活動の整備・実践というところでは、職員の配置については、後期課程の職員を可能な限り1年生から9年生に配置して、職員総がかりで児童生徒を指導していく体制をできる範囲で取ったところです。

ステージ2は日常的に小学校文化、中学校文化が入り混じるところです。ここで例えば生徒指導とか授業づくりとかそういった面でそれぞれの小中の文化の強みをお互いの職員が吸収して、ステージ2からやがてステージ1、ステージ3に広がっていけばいいなという気持ちで配置をしています。

振り返ってみると1年間では職員の資質向上というところまではもちろん行き着きませんでした。が、小学部、中学部の間にあった溝は完全になくなったと思っています。

運動会、文化発表会についてです。

運動会はまだ小学校、中学校のなごりがありました。

例えば、応援合戦で児童の部、生徒の部と分けて実施しておりました。

そこがやはり違和感がありましたので、運動会後の育友会役員会の場で、「来年度は応援合戦を1から9学年のくくりで実施します」と提案をしました。これに対してさまざまな意見を出していただきました。

「生徒の部のような完成度が期待できない」というのは、中学校文化の教員はほとんどそういう心配をすと思っています。

その心配が心配じゃなくなるなど感じたのが文化発表会でした。

(写真を見せながら) これは文化発表会のオープニングセレモニーで9年生の生徒会役員が行った『南郷戦隊スマイルレンジャー』といいます。

1年生大喜びです。大人も大喜びでした。

つまり、幅広い年齢層をターゲットに企画をする、これは、先ほどの運動会の生徒の部の完成度を上回る完成度だったと思います。

(写真を見せながら) 合唱の様子です。

指揮者の後ろには1年生が座っています。1年生の中の男の子が指揮者の背中を見て、自分も思わず手を動かして指揮の真似をしていました。

きっとその子はいつか自分も指揮者になりたいと立候補するんだろうなと思った瞬間でした。

(写真を見せながら) 劇の様子です。

これも9年生ですけれども、普段見ない表情、目力に会場が釘付けになりました。

いつか自分もあのステージに立つんだなと下の子たちは憧れを持って9年生の姿を見ていたことだろうと思います。

目指す方向性は間違っていないんだなと、1年生から9年生までの活動でいろんな良さが出てくるんだなと感じた文化発表会でした。

その他にステージ制を軸としたさまざまな整理をしましたのでそれを少し紹介します。

資料の10ページをご覧ください。

例えば儀式的行事、入学式は1年生のみにしました。卒業式は9年生のみです。

小学校であれば、6年生は大きな節目の年ですけれども、郷学館では6年生はそういう意味では節目ではありません。

ですが、4年生、7年生が節目になりますので、例えば4年生は2分の1成人式とか7年生は立志式とか、こういうことを考えていけばいいのではないかと考えておりました。

6年生のリーダー性、よく話題になります課題として。それが育たないのではないかと。そうではなくて、代わりに4年生と7年生自覚・リーダー性を育てていくという仕組みです。

遠足ですが、昨年度までは小学部、中学部という感じで行先が決まっていたけれど、今年度からステージ2以上とステージ1と分けて実施する計画だったそうです。コロナ禍において実施できなかったと聞いております。

集団宿泊的行事。小学校では6年生の修学旅行は当たり前なのでしょうけれども、なんで6年生で修学旅行が必要なのかと逆に思ってしまいます。そこも見直しのポイントかなと思います。

校時です。今年度から5年生以上は50分授業にしております。

教科指導ですが、3年生以上に教科担任制を今年度から導入しております。通常小学校3年生、4年生という学年は、空き時間がほとんどない学年ですが、そこに、授業をしない代わりにステージ1の充実のために充てるという時間を見出すことができます。

そして部活動です。5年生、6年生から参加者は入部可という形で今年度スタートしております。

児童会・生徒会活動は昨年度まで分かれて活動しておりましたが、今年度から一本化して、ただし、ステージ1はステージ活動という形で残すよう

にしています。

制服です。ここが今のところ一番の課題だと感じていたところです。

結局7年生になると制服が変わるというのは、一番起きてはいけない6年生と7年生の境目になってしまいます。

制服が変わるというのは大きなメリハリだと思います。例えば5年生以上は制服にするとかということも今後1つの案として検討していかれるのではないかと思います。

最後に給食費です。

非常に細かいことですが、児童生徒と同じように職員も前期課程は小学生料金、後期課程は中学生料金でした。それを、今年度からは中学校料金で統一してもらうようにしました。

細かいことですが、こういうところが意識の転換を図るために大事な要素になっていくと感じた1年でした。

(写真を見せながら) 昼休みの様子です。

9年生のお兄さんに1年生がおんぶされています。

7年生のお姉さんに1年生がおんぶされているという日常の光景です。

1年生の表情はもちろんですけれども、制服を着たお兄さんお姉さんの表情が穏やかで、柔らかくて、笑顔で優しくて。

小中一貫校もそうですけれども、義務教育学校の1つの良さなのかなと思っています。穏やかな中にも、メリハリを持って総がかりで育てられて、そして人間として大きく成長していく。

総がかり活性化をテーマとした学校づくりとして、義務教育学校の仕組みが、私は非常にやり易かった。大きな魅力と可能性を感じました。

6年後、義務教育の全てを義務教育学校で過ごす卒業生が自信と誇りを持って力強く巣立っていくことを期待しています。

そして、私は今行政におりますので、佐賀県内の義務教育学校の発展を少しでも支えられるように力を注いでいきたいということを最後にお約束申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

<p>会長</p>	<p>義務教育学校という言葉は初めて聞かれた方も多いのではないかと思います。</p> <p>南波多郷学館の概要についてある程度ご理解いただけたのではないかと思いますけれど、只今のご提案に対して何か質問等がありましたらお願いしたいと思います。</p> <p>私の方から恐縮ですが、事務局にお尋ねしたいんですが、南波多郷学館はどのような過程で義務教育学校になったのかということをお教えいただけますか。</p> <p>例えばこういう協議会で決まったのか、それとも南波多町と教育委員会の話し合いで決まったのか。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>義務教育学校となった経緯について説明をさせていただきます。</p> <p>平成18年度から南波多小、南波多中については、小中連携教育に取り組みられておりました、先進的な取り組みを積み重ねてこられました。</p> <p>平成26年度からは、小中一貫校として新たにスタートし、その時には既に小中学校9か年の教育計画を作成されておりました。また、小中合同の行事であるとか、中学校の教員が専門性を活かして小学校で授業を行うというような取り組みがなされておりました。</p> <p>吉牟田先生からのお話にもありましたが、平成27年には学校教育法等の一部改正があり、義務教育学校という新たな学校の在り方が認められるようになったわけです。</p> <p>そこで、教育委員会として、平成30年度に県内でもモデル的な小中一貫校を推進してきたこと、それから地域の方々の思いも受けて、施設一体型の義務教育学校として校舎を整備し、新たに郷学館としてスタートさせたということです。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>何かご質問等ありましたら。</p>

西委員	<p>伊万里市小中学校連合P T Aの西靖幸といいます。</p> <p>学校運営の観点からお聞きします。</p> <p>義務教育学校については、義務教育学校に特化したような補助金、助成金というものがあるのでしょうか。</p> <p>イメージとして言うと、単一の小学校、中学校がひとつになるということは、小学校分と中学校分を合わせた予算といいますか、それが流れるというイメージでいいのでしょうか。</p> <p>学校を運営する予算というところに差があるのかどうかということをお聞きしたいと思います。</p>
会長	<p>いかがでしょうか。</p> <p>小学校、中学校との予算の関係。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>国からの特別な補助金等はありません。</p> <p>これまでどおり小学校、中学校という予算の枠組みの中で運用しているという状況です。</p>
会長	<p>他に何かございませんでしょうか。</p>
松尾哲司委員	<p>ちょっとわからない部分があったのですが、義務教育学校とコミュニティスクールの相互性はどういう風になっているのでしょうか。</p> <p>我々が把握しているのは、コミュニティスクールというのは中学校を中心とした地方教育、行政機関との連携という感じで伺ったような気がするのですが、その辺の関係はどのようになっているのでしょうか。</p>
会長	<p>コミュニティスクールとの関係について質問がありました。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>南波多町においては、実は平成20年度ぐらいから、学校地域支援本部事業という国の事業の指定を受けて、現在伊万里市で進めようとしておりますコミュニティスクールの形を既に作り始めておりました。</p> <p>私も南波多小学校の方に4年間お世話になったんですが、その事務局も行いましたが、その当時からコミュニティスクール、地域の方々が学校の教育活動に積極的に関わっていただきながら支援をしていただく、また、学校も地域の想いを受けながら地域に貢献をしていくという形を作っており</p>

	<p>ました。</p> <p>そのようなことでよろしいでしょうか。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>他に何かございませんでしょうか。</p> <p>私の方から度々恐縮ですけれども、将来的に全ての学校がこの方向（義務教育学校）に進んでいくのでしょうか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>伊万里市内全ての学校を中学校区単位の義務教育学校にということではなく、企画政策課からもありましたが、学校の規模というのが非常に大きく影響する部分もございます。</p> <p>現在のところは、周辺部の学校の子供たちの数が減少してまいりますので、そういう学校については、統合をする中で義務教育学校へという方向性を持っています。</p>
会長	<p>今佐賀県の方でも、玄海みらい学園などありますが、加速的にそういう方向に流れていっていることは確かだろうと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>他に何かございませんでしょうか。</p> <p>それでは、上野先生にお越しいただいておりますので、先生の方から提言等いただければと思います。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
上野委員	<p>よろしく願いします。</p> <p>昨年度の議論も踏まえてというお話になるかと思いますが、何点か委員の先生方にお考えいただきたい、一緒に考えさせていただきたいと思っていることがございます。</p> <p>昨年の第1回の時に申し上げたんですけれども、企画政策課は人口減少の話から持ってこられるわけですね。人口減少の話からスタートすると、子供の数も減るので、学校の統廃合はやむを得ないだろうという話に、結論ありきの話になってしまうわけです。</p> <p>そして今日は公共施設管理計画の話がされました。</p> <p>総務省が公共施設を減らせと言ってきているわけですから、それに基づい</p>

て市役所で計画を立てられることはやむを得ないと思いますが、その時に統合、縮小、廃止という方法ともうひとつは長寿化という議論があります。建築の先生方にお尋ねしますと、学校はどちらかというとな耐用年数を長く持たせるということなんですね。そういうこともひとつ頭に入れておいていただければと思っております。

2つ目には、去年は滝野小、滝野中の議論をさせていただいたんですけども、委員の先生から、市の中心部は肥大化しているじゃないかと。

こういった人口減少の話ではなくて、マンモス化していく学校の問題はどうかというご意見をいただいていたかと思っております。

ですから、伊万里市全体の学校教育の計画の議論を並行してすべきではないかという話をさせていただいたかと思っております。

先ほどお話がありましたけれども、義務教育学校が良いというのであれば、全校義務教育学校にするという選択肢もないわけではないかと思っております。

それは物理的にまたは財政的に厳しい面がありますので、どういう風に優先順位をつけていくのかという議論もしなければならぬでしょうし、企画政策課からの提案ですと、一部コミュニティセンターとの複合化という話が出てきているわけですね。その理由は古くなっているからというお話でした。

確かに行政の方からしてみると古くなったところから建替えましょうという話になるんですけども、学校とコミュニティセンターを複合化した方が、そこに住んでおられる方、また子供たちのためによりよい教育環境になるのかという議論を抜かすことはできないと思っております。

だとすると、いろんな制限はあるかもしれませんが、伊万里の子供たちにとって学校とはどういうスタイルが良いのか、このままで良いというところもあれば、義務教育学校にした方がより教育効果が高まっていくというような範囲の中で議論をしていくことが必要ではないかと思っております。

3つ目には、実は義務教育学校の話というのは、一般的な流れからいきますと、南波多だけではなくて、多久市や玄海町、大町町だけではなくて、

全国的に見ていきますと大きく2つ流れがあって、1つは我が市から中学生を私立の中学校に逃がさないという話をされる自治体もございます。

しかし県内を見ておりますと、学校の規模が小さくなってしまい、吉牟田先生の話にもありましたが学校行事が持たなくなってきたというスケールメリットを出していく必要があるのではないかという議論をされる義務教育学校が多いと思います。人口減少していくので小学校、中学校の存続を考えた時に、義務教育学校として残していこうという動きになるんですが、理屈から考えますと、そういう統廃合の議論と提供される教育内容の話は実は別だと考えた方が良くないかと思えます。

吉牟田先生のお話を伺ってみても、統廃合の話ではなくて、9年間の義務教育学校にしたことによってどういった教育的な効果が生じてくるのかという、一番代表的なものは6-3-3-4制の区切りをステージ制の導入によって少し変えて、4-3-2-3-4となりますが、今日の子供の発育の状況というのは、6-3制が考えられた時代とは大きく異なっているわけです。

また教科にしても、小学校で外国語が導入されて、小学校に外国語専門の先生がどれだけいるのか考えてみた時に、付け焼刃で小学校の先生方が外国語の勉強をしておられるのではと思われるようなところもないわけではないですね。そうしますと、中学校の英語の先生が小学校の方に下りてきて英語の授業をされる方が教育的な効果が高いとみることもできるかと思えます。

子供の受け止め方の問題はなかなか難しいと思いますが、義務教育学校で以前先生方が一番よく言われていたのは、中1ギャップという言葉がありますが、中1ギャップがなくなりましたという話をよくされておられました。

つまり小学校から中学校に上がった時に、中学校に適応できないという生徒たちが出てきてしまっていて、不登校になるという問題が一時期指摘されておりましたが、義務教育学校にするとそういうことがなくなる。でも先ほどのお話の中では6年生のリーダーシップが育ちにくくなってしまふ。

	<p>なので、4年生、7年生で何かをしたらどうかというお話だったかと思 います。</p> <p>これは一長一短になるかと思って話を聞かせていただきました。</p> <p>それから4つ目ですが、先ほど長寿化という話をしました。</p> <p>公共施設は耐用年数30年だったかと思いますが、今から30年と考 えてみた時に、2050年の学校というのはどういう風になっているのかとい うことを考えなければならない。これは昨年度にはなかった話なんですね。 今回のコロナ禍において、リモートでの授業というのは、学校教育の中に 組み込まれていかざるを得ない。だとすると、子供たちはどのくらいの頻 度で学校に行くんだろうか、学校へ行くことの特別の意味が何かない限り 学校には行かない。</p> <p>教科の指導であればリモートでいいじゃないか、大学では既にそうなっ ていますけれども、学生が集まってくるのは部活の時ぐらいなんですけれ ども、10年、20年後の伊万里の学校のことを考えてみた時に、学校に通 わなくなってしまうということも現実には少しずつ起きてくるのではない かと思います。</p> <p>その時に学校の施設というのは、どういったものを揃えておかなければ ならないのか。</p> <p>今育てている子供たちの30年後というのは確実に伊万里市民として活躍 をしてもらわなければならない。そのような子供たちをどのように育てて いくか考えた時に、長いタイムスパンを持ちながら学校教育の在り方に ついていろんな種を蒔いていくことが必要なかもしれないと思いながら話 を聞かせていただきました。以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは今後の進め方について事務局の方からお願いします。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>今年度は諮問事項の2点目にあります『今後の伊万里市立学校の在り方 について』一定の方向性を見出していくための協議会でもございます。</p> <p>先ほど企画政策課の方から周辺部については統合により義務教育学校とし ていくことを、現段階での一つの方向性として捉えることもできるのでは</p>

ないかと考えています。

ただ、義務教育学校という形だけを追い求めるのではなく、そこにある教育効果を最大限発揮するための仕組み作りも考えていかなければならないと思ったところです。

また、教育委員会としましては、これまでも一貫して子供たちの数というよりは、子供たちが学び合うことのできる学校規模の保障と、現実問題としてある校舎の老朽化という視点で検討を重ねてまいりました。

現在求められております自分の考えを持ち、また友達と考えを吟味しながら結論を導き出し、発信していくという学習スタイルや、より良い人間関係を学ぶ場としての学校を考えた時に、一定の学校規模は必要であると考えているところです。

5年後、令和7年度の児童生徒数を見てみますと、小学校では牧島小学校、大川内小学校、黒川小学校、波多津小学校、大川小学校、松浦小学校、滝野小学校、山代東小学校、山代西小学校につきましては、市が現実的な基準として考える120名を切ります。つまり平均しますと1クラス20名を切るということです。

また中学校につきましては、青嶺中学校、東陵中学校、滝野中学校、山代中学校が市の基準である120名を切ることとなります。

これらの児童生徒数の問題、学校規模の問題、学校の老朽化の問題等を総合的に考えた時に、松浦小学校と大川小学校、特に両小学校については校舎の老朽化が著しくなっています。

これまでの中学校区を基本に考えれば、松浦、大川両小学校と東陵中学校を統合し義務教育学校とするという案について、急ぎ検討していく必要があると考えているところです。

また、現在複式学級である牧島小学校、山代西小学校につきましては、子供たちが学び合う学校規模という視点から、複式学級の解消のために、今後中学校区を基本としながら統合について検討していく必要があると考えているところです。

この2点を中心に、今年度検討を進めていただきながらご意見をいただく

	<p>ことができればと考えておりますがいかがでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>事務局の方から大体の方向性についてお話いただきましたが、昨年度のこの会議で、大川小の墨谷校長先生が校舎の雨漏りが酷いので早急な対応をと言われたことが頭に残っておりますが、やはり校舎の老朽化の問題、児童生徒数の減少の問題から総合的に考えると、周辺部は統合により、義務教育学校として統合してはいかがだろうかという提案があったところです。</p> <p>実際に学校名が出てきているわけですが、例えば松浦小や牧島、山代西の校長先生不在の中話を進めていくのはいかがなものかと思っているところです。</p> <p>オブザーバーとしてでも関係学校の校長先生は出席された方がよいのではと考えているところですが、事務局いかがでしょうか。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>ご指摘がありましたように、事務局から提案をさせていただいた内容に関係する校長先生、東陵中学校、松浦小学校、牧島小学校、山代西小学校、伊万里小学校、この学校の校長先生につきましては、次回よりオブザーバーとして参加をしていただき、また、問合せ等も地域の方々からございますのでそのような形を取らせていただきたいと思います。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>次回は『今後の伊万里市立学校の在り方について』ということでご意見を賜りたいと思います。</p> <p>では9番その他ということで、次回開催予定、令和2年10月下旬とあります。</p> <p>このことについて事務局からお願いします。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>現段階では10月下旬としか申し上げられませんが、例えば今日、区長会を予定していたというご意見も伺っております。</p> <p>金曜日ではない方がよろしいでしょうか。</p>
<p>松尾哲司委員</p>	<p>金曜日というよりコミュニティセンター長の会議があった後、各地区で区長会があるわけです。それが大体8日から10日の間にあります。</p>

	<p>たまたま今日は私どもの区長会があり、中座してここに来なくてはならないということになりましたので、何曜日とかではなく、時期をずらしていただいで決めていただければと思います。</p> <p>基本的に区長会が決まるのは2～3ヶ月前に大体決まっております。</p> <p>ですからそれを考慮していただいで日程を決めてほしいということは申し上げておきたいです。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>わかりました。</p> <p>時期についてはこちらも配慮をしながら期日を決定したいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>それではこれを持ちまして令和2年度第1回伊万里市立学校規模適正化協議会を閉会いたします。</p> <p>お疲れ様でした。</p>
	<p>《閉会》</p>